

昭和16年12月1日（月）

快晴なるも冷ゆ。切手代払込みに、余行き、請求切手類搬出にも午後より出掛く。保険の中野氏、後藤寺局見学に行き、永江氏等より、呉々も宜敷くとのことを余に伝達の為、奥家さんに余を待受けて通知方申出ありたるやにて、此日食堂の中野氏に通じ、同氏食物を頬張りし儘、出来たり、これ丈の口上を余に述べらる。感謝して承り、厚く礼を申して辞去す。此日より坊や、朝七時と午後四時の二回に乳呑みに行くこととなる。ねんねこ出来上がり、縫い賃一円十銭支払ふ。甘藷、青果市場に出廻り、得意先には配付するらし。朝ミワさん久子を連れ神詣で。其の序で、八百屋に立ち寄り甘藷五百目求め来らる。夜頂く。此の朝の食事に、昨夜のパン過半頂く。夜道子より速達便到着。二十八日、市内にて五十円程の品物を調達、目下大至急調整中とあり。其の葉書を、坊は意識あるかの如く握りて放さず。果ては握りし儘眠入る。今朝、為替野口氏窓口の筈なるに前田氏やり居る。ミワさん野口氏に注意したるに、奮然として「夫れなら遣ります」とて交代すと。前日来欠損を苦し居れる由なれば、前田氏の窓口にて取扱ふを特に代わらざりしものと認めらるるも、謂はれて見れば痛い点を射られ、当惑と忿懣とが面容に表はれしと思料さる。併し、幸に欠損に至らざりしも、不平不満を以て仕事に衝たりては、其の出来栄え上乘ならざるは当然ならん。

昭和16年12月2日（火）

曇り、薄雲はびこり寒し。午前四時半起床。余の便所に行き居る間、久子来たり何か咄す声す。後、事由を尋ぬれば、夜半十五分毎に腹痛ありしも、起こさずに今迄待

ち居れりと。ミワさん周章、母堂を起こす。母堂五時より起床、火を起こし下さる。七時電話にて細川病院に注進。久子朝食を済まして、ミワさんと病院に行く。余、切手請求代払込みに中津局行き。臈（やが）てミワさん販り来たり。途中、腹痛幾度か休み漸く着。其の儘入院、附添婦も備ふて呉る。メッセンジャーを頼み、蒲団類を持運ばしむ50銭。自転車に附く。間もなく附添婦来たり。木炭食器等を持行く。余切手を請取りに中津局に行き、販りて米5升、梅乾し、塩等持行く。夕方、勝恵ちゃんの祖母と祖父と湯に来たりしに、生憎、釜破損休業の由にて兩人して来たり。新穀二升程持来さる。色頗る白し。其の前に、赤坊の着物等一式持参さる。澄子間に合わぬ恐れありしを以て、横田でも気を揉みて貸して下さるもの。此日ミワさん甘藷、野菜屋より分かち貰ふ。一貫目持来らる。其れを蒸し居らる。其の赤坊の蒲団類に湯煖房を併せ、余持搬ぶ。更に夕方蒸し藷をも持ち行く。ミワさんも一緒に行く。夕飯、為に遅る。此の朝道子に電報にて「ケフノヨテイ オクルミモチ スグコイ」。午前11時15分、恰度道子買い物にて不在。澄子惶（おそ）れ出し、午後二時を過ぐるまで縫い物をし、三時の汽車に飛乗りて七時到着。夕食、余は例に依り、芋のみ食したるもの残り相当あり。澄子飴を姉に買って貰ひ、途中食うて来たりし由。幾らか食べしものの如し。一度久子を見舞ひ、八時の汽車にて駅に荷物受取に行く。既に到着しあり。リヤカーなしにては運搬不能。俵を備ふ。容積大にて俵に納まらずと称し、応諾せず。止むなく余一個、澄子とミワさん一個を局に運び、不用の品を抜き取り、各自持たれる丈け提げて、余一袋担ひ搬ぶ。久子も附添いも居ら

ず。産室に赴きし由。余は荷物を置き途中まで迎えに行き、荷物を再び担ぎて之を収む。二階の部屋に移ることとなり、荷物を移動す。帰局すれば十時を過ぐ。新聞見、中途にして寝る。坊や単独にて寝かさる。

昭和16年12月3日（水）

晴天。夜半電鈴けたたましく鳴る。ミワさん床を蹴って起きらる。野口さんも起きて来らる。電話には附添婦の声にて、午前一時十五分男子出産。母子共健、赤坊九百匁ありと。局部裂傷縫合せし由。坊、仮死の状態となり産湯の際泣かず。人工呼吸し漸く泣き初む。附添い木炭の火に中毒して隣室に寝、澄子も産婦はしきらぬと称して逃げ、久子苦しかりてもがき、己の髪を掴むと。朝五時神様より帰路、ミワさん坊と立ち寄り、次いで横田に行く。澄子日中一度、買物に來たりし序でに立寄り、後刻、再び來たりて夕食をこちらにて済まし、夜に入り木炭一俵をリヤカー借りて搬ぶ。余行かず。野口さん森田さん見舞に行つて下さる。澄子もミワさんも行き、大勢押しかけたるなり。九時帰り、夕食甘藷頂く。澄子、副食物調理せり。甘藷は今日も一貫目手に入れて來らる。夜、芋も持行かる。愛子、カマボコ、昆布巻、甘藷、缶詰貝等々、煮メを重箱とし見舞ふ。澄子、夜來たり泊まる。此日深抹前局長、長峯局長と中津駅にて会合の筈。一汽車後る、其の旨注意呉れと電報あり。余、困りしも駅に至り物色す。二人目にそれと分かる。間もなく駅長室よりラウドスピーカーにて、長峯局長を駅長室に求め來る。曩に午前11時ので行くとあり。午後0時のに変更となる。

昭和16年12月4日（木）

晴れたり曇ったり。昨夜、木炭更に一バケツ、リヤカーにて持来。白米五升遣りしも、澄子麦を混ぜねば勿体なしとて、麦を持行く。十時頃、横田母堂と小母さんと見舞に来らる。ミワさん其の後を追う。余、其の必要を誨（おし）ふ。遂に行かる。横田氏林檎十数個持来らると。猶ミワさんの話に依れば?????如し。夕食後、信子一周忌にて、色々菓子蜜柑等求めて持行く。野口氏も行く。可なり冷ゆ。今日、山本氏来たり甘藷一貫目を事務員に渡され、余に報告さる。午後、耶馬溪局長臨局。

昭和16年12月5日（金）

曇り、晴れ間もありしも可なり冷ゆ。朝雑炊。澄子、昨病院泊まり。附添婦、木炭一貫以上持行く。朝、澄子買物序でに立寄る。切手請取りに午後より行く。神様の祭日。母堂ミワさんに連れられ、坊も連れ行き、二時間程経過。四時半帰り、更に乳呑みにミワさん出発。此日、山根先生より手紙来たり。自分は民事の弁護士にして刑事事件に関与する資格なし。併し友人に其の人あれば、依頼し置く云々とあり。母堂不思議に思ひ、山根さんより何故手紙来るかと質問され、当惑すと云ふ。母堂も腑に落ちぬ点あるやに見受けられ、神様の力に縋らむ所存にて、神詣でさるるものと認めらる。

昭和16年12月6日（土）

此日予報は晴れとあり。晴天どころか曇天、雨模様のまま経過。夜に至り降雨。切手請求あり、午後請取りに赴く。敏子さんより来翰。二郎、先日峯を訪ふて、貢氏の為に一度見舞に行く云々と申出られ、皆感謝し居れりとあ

り。一日には訪ねて行きたるものと思料さる。可なり冷ゆ。澄子一度来たり、此の夜も病院に泊まる。余、頃日頑強の腫れ物に冒され、自宅療法を以て手当を継続し居るも、一向全快の模様なし。坊、夜湯に行きたり。

昭和16年12月7日（日）

此の日朝の内曇り、次第に快晴となる。澄子十時頃、鶏卵数ヶ求め来たり。坊を二階に遊ばせ、十一時半乳を与ひて去る。ミワさん髪を染め不在。此の間、坊目醒まし、さてこそ澄子の世話になりたるもの。十一時半の乳は少し早めの為か、嘔吐二回。三時ミワさん甘藷蒸し、病院に持行かる。余、夕餉には少々早きも、温いうちにと食し、衣服を改めて久子の病院を訪ぬ。本朝、巖来たり飯を出して馳走すと。更に午後も来たり見舞す。余行きし時、鐘紡中津工場前にて、ミワさんと澄子と一緒にこちらに来るに逢ふ。澄子は余を見付けて引返す。坊はミワさんの背中で睡り居る。二階の最初の部屋に、赤坊寝て居る。間もなく泣き出し、甚だ喧噪の感あり。澄子パンを出し二つ食べ、更に林檎をも頂く。夕食を済まして帰れと云ふも、食はずと断りたり。附添婦、八幡より友達が来たり、今夜帰らせて呉れと申出づ。看護婦来たり、坊の体温を附添婦に計量せしむ。次いで久子も計る。坊を湯に入らしむる為、看護婦と附添婦と階下に連れ行く。澄子も扱い方見習いの為、一緒に行かしむ。今日、終日快晴。日中気温上昇。

昭和16年12月8日（月）

此の日午前英米との国交断絶。宣戦を布告さる。快晴。ラジオ臨時ニュースにて、全国に放送せらる。ラジオを

有つ家にては異様の緊張漲る?。切手請求なかりし為、態々（わざわざ）資金請求に行く。此夜、燈火管制警戒警報の儘、夜を明かす。澄子に道子より手紙あり。電話で招致す。明日初七日、何か赤飯と云うも時局柄小豆手に入らず。五日飯でもと思ひぬ。夕方甘藷を茹で、ミワさん澄子に持行く。附添い今日不来。夜、風呂にミワさん坊を連れ行かる。ラジオ故障修理の為、中井に持行きしも、燈火管制の為、仕事出来ぬとのことにて持戻る。各店頭共、燈火に遮蔽し、歩行には折柄の明月にて困難ならねど、勝手の分からぬ嫌いあり。澄子赤坊の命名に淳（きよし）としたりと云えば、良き名だと喜ぶも、余には別に嬉しくもなし。と云って反対されるよりはよろし。

昭和16年12月9日（火）

夜半より降雨。坊、神詣で休み。九時よりミワさん柿坂局行き。豊後町より女事務員見ゆ。九時切手賃銀払込み、外に資金請求。此の日、??室の部屋にて眠らず。零時過ぎ、請取りに行ける際にも資金請求あり。朝、昨夜の甘藷頂く。朝伊勢さんより、餡餅一重持来さる。久子等よろこび分配さる。午後四時三十分、坊に乳貫ひに余行く。行き違ひにミワさん帰宅。逡信局よりも見えたる由。襦袢を乾かして寝る。

昭和16年12月10日（水）

五時半起き出づ。坊の摩擦は、神詣で（靴屋にラジオ常会六時三十分より。ミワさん坊を連れ行き、恰度誰かの講演を聞き、大いに時局認識に役立つ）の機を失し、常会出席後となる。七時二十分乳貫ひに行かる。朝飯、甘藷焼きて頂く。澄子、午後一時過ぎ来たり。夕飯に赤飯

代わりに味飯を炊く為、調理に衝る。恰度此日、鯛を十三尾伊勢さんへの餡餅の禮に遣り、残りにて飯に入れ、或いは生にて酢味噌とす。相当多量頂く。此の朝、澄子に餡餅、焼き芋、菓子等持参さる。道子よりの手紙（多くの場合封緘葉書を用ふ。此日見せて貰った分も御多分に漏れず。）???演習に出勤??苦しいそうだ。それも澄子に来て貰ひたい底意と覚へたり。此日又、ラジオ中井に持参。先客の分??仕事終わり、余に移る。異常なしと云ふ。アース線らし。一時間を費やし帰る。八日より波調変更、各局共同一となり、為に??雑音繁く完全聞知し能わず。機能の敏活なるも、寧ろ障害に悩まさる。

（12月4日から10日にかけて、矢張りインクの染み黒ずみて、判読不能の箇所多く、極めて残念!!）

昭和16年12月11日（木）

朝、澄子来。襦袢洗って帰る。午後二時来たり。うどんを拵えるので調理を手伝ふ。鯛団子作り、うどんを入れて煮る。四時前頂く。晴天なるも風頗る寒し。切手請取りに行く。資金の請求もやる。此日、年末手当夕方到着に付き、夕食後発見。同時分配にかかる。昨年に比し頗る増額となる。ミワさん60、野口54、森田50、伊勢42、前田9。現金手当、野口5, 5、ミワ2, 1、前田1, 0。計215円及び8, 60。夜うどん沢山頂く。澄子は持販ると云ふ。明後日退院すと。此日澄子庖刀、誰かに盗まるところぼす。一升やりし醤油は五合しかなしと。

昭和16年12月12日（金）

曇り。天気予報の通報罷む。今日より水槽を出せり。澄子来たり、明日久子退院の由。朝坊寝ず、泣くこと甚だ

し。一時間続けて猶歇まず。ミワさん心配して、清松医
かかり行かる。先客多数、坊泣きやみ笑ふて居る。則ち
帰り、余時々守りす。二時頃より負ふて、母堂の仕事を
助く。遂に其の儘寝る。夕食を負ふた儘過ごす。五時三
十分乳呑みに行き、六時半湯に行く。手当発表。横田母
堂、勝恵ちゃんを負ふて来たり。為替を振出し、一寸立
寄り行かる。国債貯債等の売捌きにて、ミワさん多忙を
極む。今朝寒気強く火鉢を出す。今日切手請求なし。資
金の請求に行く。風昨日強かりしも、今日はなし。襪襦
乾き遅く、火にて乾かし下さる。修養団会費送金。坊、
下利便襪襦にやる。朝の分は順調なり。蓋し腹痛でもあ
りしと思はる。

昭和16年12月13日（土）

午前五時四十分頃より降雨。坊神様より賑りがけ、降初
めたる由。夫れより降り続く。午後歇み、余の切手請取
りに行く零時30分頃は、道路半ば乾き居たり。久子、此
日午後退院。恰も、巖見舞に病院かかり行き、朝吹氏と
自転車にて荷物を搬び呉れたり。リヤカー借るべく頼み
置きたるも、必要歇み断りたり。食事部屋を余等の寝室
とするに付き、3畳敷き莫薩4, 50にて購入。久子等を
余の部屋に休ます。入院費20円余、久子のタクシー1円。
今日請求の債券、逓信局より到着。事務室にて、木炭に
て火を起こし暖を採ることとす。二個配置せり。四時の便
にて、証券の手当来たり分配す。慰労手当、現金手当、
債券手当等、為替の所得多し。

昭和16年12月14日（日）

曇り、朝食九時となる。藤岡麗子氏よりと道子より、封緘

葉書あり。前者は日曜に当地に来ると云ふこと。後者は別段の問題なし。貢?のボーナス幾分送付越す旨、通知あり。是れ等の人に対し、何かを送って遣りたし。蒲鉾を遣ることにしたしとあり。午後零時半に麗子さんを俟つ。不来。此日、甘藷饅頭を澄子に造らしむ。午後一時半、麗子さん来る。事務室にて話す。達郎に面会、意見を聞く。出産は一月と思ひしに早い様なり。自分でどうすることも出来ぬ境遇ながら、坊は育てて引き取りたし。養育料は出すと云ふ。此日も入院料持来たりし旨答ふ。四時半まで話す。余の意見通りに、万事任せて呉れる約にて諒解を得、芋饅頭等の馳走夕食を出して、六時二十二分澄子に送られて販らる。横田に芋饅頭、蒲鉾二本やる。先方よりはぎの餅貰ふ。一ヶ頂きしも、糖分不足甘からず。七時坊湯に行く。終日曇り、稍(やや)寒气和らぐ。麗子、駅にて澄子に百円を届く。明日、通常為替にて返付することとせり。此日割合に温かなり。

昭和16年12月15日(月)

降雨、黎明と歇む。坊鼻風邪、咳出て治せず。今朝、神詣で中止。電気炬燵して暖めつつあり。襦袢は澄子に火鉢に乾燥せしむ。母堂芋饅頭、澄子も加勢しセイロ(裏の漬物屋より借用)にて蒸す。午後澄子、巖方に持行く。余十一月三十日附け二級手当、慰労金七十七円辞令来る。此夜、襦袢不足当惑せり。坊、連日の咳に気管を損じたる如く、ミワさん相談所へ連れ行かる。エキホス1円にて求め、水薬3日分持来らる。早速湯にて温め、貼附やる。我等食事部屋の四畳半に寝ること故、窮屈を感じらる。此の夕飯の際、ミワさん坊やを手より落とす。澄子気を揉み、誰彼に落とすことありやを聞廻る。予て快から

ぬ者には、此時こそと有らぬことを謂ふ。澄子堪らず余に告げ口す。母堂之を聞き、ミワさんに告げ口す。夜ミワさん、直接自分に注意せず陰口を謂ふとて奮概す。余遂にミワさんに、自分の欠点を反省せず、徒（いたづら）に人を責むること不都合なりと、痛く詰責す。澄子は澄子で、早く帰りたしと云ふ。馬鹿共には困るものなり。

昭和16年12月16日（火）

降雨、坊神詣でせず。エキホスの為、摩擦もやむ。此日コンクリート水槽出来て、2円64銭支払ふ。曇り、後幾分晴れ間を見る。事故の解決の為、金谷上の丁、渡辺と云ふ中学の先生を訪ふ。留守。切手資金払込、及び請取共、余行く。今日も相談所に行かる。大分咳せぬようになれりと謂はる。負はし居る時間の方永し。昨、森田さん等より林檎九つ頂く。百匁19銭。原書整理。蒲鉾注文行かる。注文は受けぬ。品払い底と。

昭和16年12月17日（水）

晴れ。切手請求代金払込み、及び請取りとも余行く。此の間坊負ふて貰ふ。エキホスの為、摩擦中止。神詣でせず。ミワさんのみ行かる。余30分余、寝過ぎす。腫れ腹部に移行。原因は油物にありと認めらる。此の日、ミワさん甘藷1円分求め来らる。四斗樽未だ乾燥せざるも、之に移し保管す。赤坊、手指長く活動の状態。赤坊の域を脱し居るとて、驚異の眼を瞳（みは）らる。大男になるべしと噂さる。金谷上の丁に再び行きたり。裏に人の気配あり。家人なり。表戸は平素、閉鎖しある如し。ペンチ1, 60求む。一番廉（やす）い品を求め来る。夜は甘藷にて三時半頃済ます。坊は咳、余りせぬ様になれり。

久しく、燈火管制下の夕刊新聞配達中止の処、此の夜より配達することとしたる如し。割合に暖かなり。

昭和16年12月18日（木）

澄子に依りテンプラを造らる。夕食に供出。甘藷は味旨し。此日眠り不足にて、睡きこと甚だし。夜、澄子林檎を食べよと、包丁まで持来る。事務室にて頂く。今日上村氏より甘藷一貫目、頒けて貰ふ。早く寝る積もりにて、矢張り十時を過ぐ。晴天、時々曇り。風寒し。襪襦は大
方乾きたり。金谷に至る。

昭和16年12月19日（金）

昨午後四時、金券到着したるも、過超金納付後とて今日に持越す。切手請取りに行く。夜甘藷頂く。横田氏より、貝のチリをするに都合よき剥き身を持来らる。夜チリにして食べる。余は食べざりし。坊の着物の白帛（しろきぬ）を、三津屋にて9円25銭にて、十三尺程求め来らる。澄子も行く。襦袢五人分出来ると云ふ。此日快晴、風なく暖かなり。但し朝の間は寒し。九時前就寝。夕食、甘藷を頂く。

昭和16年12月20日（土）

坊を五時起こさず。ミワさん神様に行かず。切手検査す。丸久肉屋材料欠乏の為、閉店を継続しあり。既に肉屋にまで、品払い底を及ぼせり。昨夜猫入らず甘藷にかけ配置したるが、今朝大方食謁（つ）くせるを見る。朝、甘藷残りを焼きて食ふ。夕食に、横田前より求めたる50銭分饅頭（うどん）を、過半茹でて頂く。油蒲鉾を入れたるもの。引き続き腫れ物にて聊か閉口の態なり。夜母堂、

再び猫入らずを餌に、鼠征伐遊ばさる。久し振り坊、九時二十分湯に連れらる。煙突左官を頼み2, 25、嵌め器63。而して手間賃一円を支払ふ。十一時過ぎ寢床。

昭和16年12月21日（日）

朝来降雨。終日霽れやらず。割合に暖かし。甘藷、夕食時に蒸したるを頂く。安武さん応召の由。貢氏のボーナス五十円送金ありと、道子より葉書あり。夜淳坊の為に着物を7, 80、及び帽子涎掛け共、拾円計りの買物さる。蒲鉾は配給原料なき為、大量の注文は受けられぬと断る向き多しと。襪襦大いに乾かし貰ふ。足袋澄子に補繕し貰ふ。此の朝菓子50銭分求め来られ、澄子の土産に遣る。腫れ物頑強、痛み甚だし。昨夜も猫入らずかけたるが、幾らか鼠喰いたるらし。澄子二十三日帰福の旨、通告す。ミワさん土産物の菓子荐（しきり）に集めらる。九時半より小包の蒲鉾、荷造りす。事務服、臀の部分綻びたるをも修理し貰ふ。

昭和16年12月22日（月）

便所にて出血を見る。廊下点々として血液滴る。頃、油物は余程注意し居たる為、油脂分に依る障碍とは認められず。甘藷を多量に食する為かと思はる。此の朝も甘藷を焼きて食ふ。夕食時にも三切れ程残りあり。二郎より小包届く。赤坊の着物にて、昨ミワさんが求められたるより、品質低下の傾きあり。達坊に狗細工、是れは二円位のものか。

昭和16年12月23日（火）

快晴。東京峯へ箱入れ、道子依頼分二包みは紙入れと

して、今朝梱包発送。但し峯分は四疋（キログラム）を超え、汽車便とす。此の日赤坊の二十一日。四時過ぎ風呂に連れ行く。夕、甘藷味飯。余甘藷のみ頂く。腫れ物痛み甚だし。切手請取りに行く。澄子カレンダーを求む。余の襯衣洗濯して貰ふ。皇太子殿下、八回目の御誕辰。九時過ぎ坊や湯に行く。

昭和16年12月24日（水）

快晴。切手請求なし。十一時出勤。澄子販福手配す。久子昨、市内に澄子と買物に行き、更に風呂に行き、少し疲労を感じたる由。出血あり。今朝寝込む。夕方販ると云ふて、澄子出発を躊躇す。ミワさん甘藷茹でたるを求め、茶を出して送別さる。余、席に連なり澄子に出発延期を命ず。乃ち病人を看護に来て、其の病人が癒らぬと云ふに、放任して安きに即くは不道徳なりと云ふにあり。澄子出発を延期す。余、道子に電報するに「久子少し悪い今日販れぬ」と本文す。出発の日時を明示せぬことにしたり。昨夜味飯の残り、本朝に持越す。余又、甘藷を頂き、其の残り飯を頂かず終わる。夕食にも先刻の蒸し芋を頂き、飯を半分に減少して貰ふ。繃帯を首に巻きたる儘、仕事す。二郎に葉書にてネクタイの禮を述ぶ。腫れ物か、猫の罰が当たったのか知れぬと書けり。

昭和16年12月25日（木）

午前中曇り。次第に雲濃く、降雨となる。澄子一時の汽車で販る。零時半頃より茶菓を出して送別せんとし、余も亦列席したるも、肝腎の澄子便所に行き顔を洗い、仕度に手間取り、遂に列席せぬ儘出発す。ミワさん煎餅持たせて遣らる。土産物多数。小荷物は定量に超過の恐れ

あり。蒲団を取除きたり。夜に至るも雨歇まず。余、朝より色々仕事す。税務署関係、最もややこし。此の朝、横田母堂、講習所入所の息子を連れ来らる。色々話して還りぬ。淳坊に湯を浴びせやる。此の夜香港島、遂に陥落。香港総督、開城申出づ。開戦以来十八日目。

昭和16年12月26日（金）

朝来細雨、次第に薄陽が射す程度になる。昨日より繻帯の儘、執務す。切手請求にも受取にも、ミワさんに行って貰ふ。道子より、久子病気に依り澄子の帰宅も延期さるべきも、病気の程度に付き、尋ね来れるもの。此日気温上昇、頗る暖かなり。寧ろ珍しき位。久子四畳半に坊と休ませ、余等復旧す。夜八時、赤坊を連れ湯に行かる。余は二十分後、達坊を連れ風呂屋に至る。混雑の為、未だ洗はず居るとて、余を俟たせ、十分間縁を覧して達坊を渡し、赤坊を連れ販る。少時して赤坊乳を欲しがり泣き出す。今朝、膏薬と繻帯とを石黒より求め来らる。切手請求の販るさなるべし。給料到着、交付。余の手当も同時に合算到着。

昭和16年12月27日（土）

快晴。襤褸の世話で一苦勞ありしも、今日は概ね乾く。朝、餅米をミワさん持ち、餅屋にて撞きて貰ふ。九時近くミワさんより電話、今直ぐ容器持参せよと。乃ち鮭桶を持参。豊前銀行より右に、ミワさん迎えに来らる。然るに、搗けるには僅々十分も要せぬが、乾燥に暇が要り半時間程待つ。ミワさんを先に販らしむ。惶（あわ）てて金入れまで置忘れて販らる。余が帰るまで誰も飯を食わずに待居らる。其の為、朝飯十時となる。ミワさん切手の金

を払込みに行き、其の間坊を守り、新聞を見る。十一時過ぎ漸く出勤。切手請取りに行く。爰でも半時間待たさる。大量葉書到着し、整理に多忙を極めし如し。主事さん自身、六千枚葉書を提げ来らる。気温暖かなること嬉し。午後六時半、常会ミワさん坊を負ふて出席。為替正午まで。便覧訂正書到着。刺換えに着手。夜十時常会退散。余の腫れ物、ミワさんに依り繃帯巻等まで扱って頂く。常会より帰り、坊を寝かすに容易に眠らず。余少時俟つ。坊とミワさん睡りに入り来たらず。自分で全部処置せり。爰にも大なる教訓を得たり。東京峯へ、駅扱い便にて小包送る。

昭和16年12月28日（日）

快晴。久子坊やを泣き歇ますべく、「おしゃぶり」を求め10来る。是れが効を奏し、ちゅちゅ吸い初め、泣きたくも泣けず。此日午後より大掃除。局内全部洒掃（しゃそ）う）。慰労の意味にて、最中みたような一個2銭のを六個づつ分配す。ストーブも序でに出して貰ふ。余の卓子も時計の下に位置を改む。ハタキ改作、スリッパ糸にて括緊。便覧は全部訂正を了せり。机の上に硝子を置きたりしに、間に合わせものとして破れたり。今日厚手80にて求め来らる。八時半、余独り留守居。他は湯に行きものの如し。同四十分、余坊や連れ行き、九時過ぎ帰宅。

昭和16年12月29日（月）

晴天。中津局に切手代払込みに行く。ミワさん横田より餅10貰ひ来られ、之を焼きて頂く。余四つ、久子頒け前中の一個を合わせ、五個を食ふ。久子よりパン愛国5銭のを、最初に食べたる揚げ句とて可なり食ふ。伊勢さん大

巻キャベツ2ヶ持来らる。菓子50銭遣ることにしあり。数日前求めし蒲鉾、黴が生えたり。今日蒸し直したり。甘藷、野菜屋より50銭分、山本野菜屋より1貫目分求め来らる。東京敏子さんより、母堂に10円送り来らる。夜、淳坊へ裕1枚、達坊へ涎掛け等求め下さる。ミワさん附添い行く。夕方、道子より小包送り越す。黒パン多量、余への土産とあり。皆に遣る。夜此のパンのみを頂く。先日切れ地のみにて、坊やと赤坊の襦袢出来上がりたり。二千六百年祝典記念章、逓信局より送付越しあり。朝、新聞不着の為、早く出勤。保険料前納す。

昭和16年12月30日（火）

晴れ、日中暖かし。切手請取りに行く。ストーブは四五日前より取付けあり。煙突コンクリートに改造されあり。火は焚き居らず、待機の姿勢。一月に入りて初むること、其の筋通牒通りらし。一方、俺の方でも二十八日の大掃除の日を期し、ストーブを事務室に据付け、余の机を時計の下に位置を変更したる等、冬準備に入ったり。新聞不配。電話にて照会后、宮島町事務所に貫ひに行く。行違いに届けに出掛けし由にて、空しく戻る。十一時過ぎより出局。夕飯甘藷。八時半湯に行き、赤坊も行く。八時三十五分、坊を連れ行き、赤坊と交換し帰る。十五分程待たさる。蜜柑四つ頂く。

昭和16年12月31日（水）

切手請求。今年は制限なしに請求を受理し呉れ、御蔭で立替金を要せず。昨年より売行きも多少尠少（せんしょう）なりし。晴れ、時に曇り。新年名刺交換会も廃す。腫れの為、繃帯をして居る始末故、髭剃りもせず。野口

さん髪結いに早朝赴きたるも、多数人集まりて目的を果たし能はず。夜も十一時過ぎまで待居りしも、順が廻りぬ裡に十一時を過ぐ。切手請取りに行く。夜、蕎麦3、うどん3求め、他は乾うどんにて頂く。可なり大量食べたり。坊や等、湯に行く。八時過ぎ、芋洗ひの如しと謂はる。坊やの乳呑みは本日限りにて打ち切りとし、丸久より拾五円の家賃は其の儘横田に禮とし、其の他に羽子板1, 50求めて遣る。